

10.人や国の不平等をなくそう

「慶應義塾育児支援プログラム(KIDS) for Students」開始

2020年より提供している、研究・教育・診療に携わる教職員の仕事と子育てとの両立を支援する「慶應義塾育児支援プログラムKIDS (Keio Infant Daycare Support)」の対象を、2023年度から慶應義塾の学部および大学院で学ぶ塾生にも広げ、「慶應義塾育児支援プログラム(KIDS) for Students」を開始しました。慶應義塾大学の授業に出席する時間(通学時間含む)にベビーシッターサービスを利用した塾生に、一日当たり最大4,400円の補助金額を支給しています。

「大学におけるDiversity Equity and Inclusion (DEI) の課題

—多様な経験から学び、共通の目標を達成するために」国際シンポジウム開催

2023年6月12日、三田キャンパス北館ホールにて、協生環境推進室主催のシンポジウムを開催しました。理工学部 小原京子教授がモデレーターを務めたディスカッションでは、APWiL (Asia Pacific Women in Leadership) のメンタリング・プログラムに取り組む各国の大学の研究者と慶應義塾大学の女性研究者による活発な議論が交わされました。



メンタリング・プログラムを正式プログラムとして始動、塾生にも拡大

慶應義塾の女性教員のエンパワメントとリーダーシップの促進を目的に、2022年度にパイロット版として実施されたメンタリング・プログラムを、2023年度から正式なプログラムとして始動しました。2023年度は、18組のメンターとメンティーのペア合計36名の女性教員が参加し、一年間を通してリーダーシップやエンパワメント等、それぞれのテーマについて学び合いました。プログラムの一環として行われた中間報告会では、同時にワークショップを開催しました。第1回は、スポーツ心理学者のシステムデザイン・マネジメント研究科 田中ウルヴェ京特任准教授による、「心の整えかた」に関するストレスコーピングへの気づきと理解を深めるワークショップを実施しました。第2回は、体育研究所 板垣悦子教授による、ボディコンディショニングのワークショップとして、ピラティスの実技体験や呼吸法のレクチャーを受けました。

さらに、2023年10月からは、「慶應義塾大学 塾生メンタリング・プログラム」の第1期が開始しました。慶應義塾の半学半教の精神のもと、塾生(メンティー)と社会で活躍する塾員(メンター)が交流し、協生環境の学びを深め、視野を広げることで、卒業後のライフプランについて考える機会となることを目的としています。プログラムは1対1ではなく、様々な学部にも所属する学生と多彩な職場で活躍する塾員で構成されたグループごとに実施しています。



教員メンタリング・プログラム 修了式



塾生メンタリング・プログラム 中間報告会

プロジェクト「キャンパス・バリアフリー探検隊～協生環境の実現をめざして～」実施

2023年10月から2024年3月にかけて、プロジェクト「キャンパス・バリアフリー探検隊～協生環境の実現をめざして～」を実施しました。

このプロジェクトは、障害当事者と一緒に実際にキャンパスを巡りながら調査し、障害学生等の修学の妨げとなっているキャンパス内でのバリア(社会的障壁)を発見し、誰もが過ごしやすい、バリアフリーなキャンパスをつくるための提言を行うことを目的としています。

参加者は、まず2023年10月16日に事前研修として、DET(障害平等研修)を受講しました。障害平等研修フォーラムから障害当事者ファシリテーターをお招きし、ワークショップを通して、「障害の社会モデル」の考え方を学びました。

2023年12月には、三田・日吉・矢上キャンパスの調査を実施しました。実際に車いすに乗りながらキャンパス内を移動したり、弱視を体験できる眼鏡をかけながらキャンパス内を移動したりすることで、授業だけでなく、休み時間や課外活動を含めたキャンパスライフ全般を想定し、何が社会的障壁となるかを確認しました。

2024年3月14日の最終報告会では、障害の社会モデルの視点から現在のキャンパスを見直し、義塾全体として実現していくべきことを塾生が提言しました。

ハード面(施設面でのバリア)だけでなく、ソフト面(啓発活動、情報発信の方法など)についての解決策も提言され、実現可能性の高いアイデアが多く生み出されました。



卒業式・学位授与式・入学式における「@easeサポーター」の活躍

日吉記念館にて開催された、2022年度大学卒業式、大学院学位授与式、2023年度大学入学式、大学院入学式において、障害学生を支援する塾生スタッフである、「@easeサポーター」が、情報保障^{※1}の役割や介助が必要な方のサポートなどを担いました。

「@easeサポーター」は、主に慶應義塾に在籍している障害のある学生の支援や、バリアフリーに関する活動を行っている有償の塾生スタッフの総称で、専門の研修や訓練を受けています。

式典の情報保障では、場内スクリーンとYouTube配信の字幕の送り出しを行いました。字幕の送り出しは、captiOnline^{※2}という、筑波技術大学で開発された遠隔文字通訳システムを用い、登壇者の発言内容をリアルタイムで画面上に字幕として表出しました。

また、招待塾員^{※3}等で介助が必要な方のサポートなども行い、大変好評でした。

※1 聴覚や視覚などに障害のある人の「健常者と同じような情報が得られない」という困りごとに対し、手話・文字情報・ICT技術などを用い、本来得られるべき情報を保障することをいいます。

※2 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科の若月大輔教授が開発した遠隔文字通訳システム。

※3 卒業式には卒業25年を迎える卒業生を、入学式には卒業50年を迎える卒業生を招待しています。



国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 開催のシンポジウムに塾生会議のメンバーが登壇

2024年3月29日、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム (SDG-UP)」(<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>)の参加大学とサステナビリティの取り組みについて議論を行うシンポジウムが、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) により開催され、SDGsの達成に向けた学生主導の取り組みに関するパネルディスカッションに、塾生会議のメンバーが登壇しました。塾生会議の概要について紹介した後、「2023塾生会議」が行った最終提言のうち、①地方出身学生支援のためのイベント「よる食堂」の開催、②教科書の電子化・サブスクリプションの導入について発表しました。

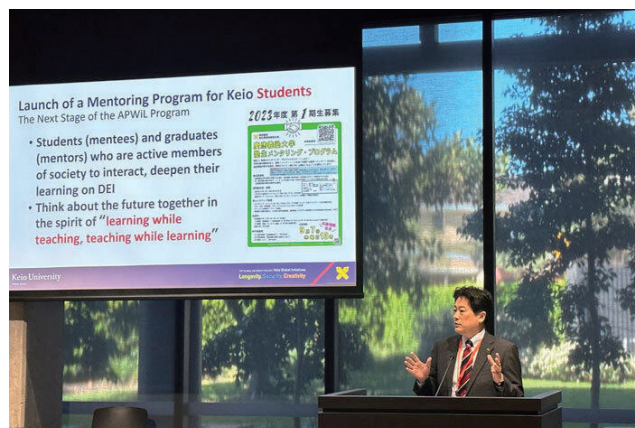
企業から参加したアドバイザーからの助言や、参加者からの質疑を受け、活発な議論が交わされました。



土屋常任理事

APRU Senior International Leaders' Meeting 参加

2023年9月24～25日、シドニー大学で開催されたAPRU Senior International Leaders' Meeting (SILM:国際担当上席者会議)において、土屋常任理事が「Equity, Diversity and Inclusion (DEI) Initiatives at Keio University」と題した発表を行いました。慶應義塾メンタリング・プログラム、世界女性デーにメルボルン大学と共催で実施した「インターセクショナルリティ・ワークショップ」、大学におけるDEIについて情報共有や意見交換を行ったDEIシンポジウムなどの取り組みを紹介しました。



30% Club Japan 9大学トップ「多様性ある大学運営」のためのコミットメント発表

慶應義塾は、2010年にイギリスで創設された、役員に占める女性の割合の向上を目的とした世界的なキャンペーンである「30% Club」の取り組みに参加しています。2024年2月13日、伊藤塾長が、30% Club Japan 大学グループに加入している他大学のトップとともに、「多様性のある大学運営」の実現への道筋をつくることを目指し、具体的な目標を言語化したコミットメントを発表しました。

